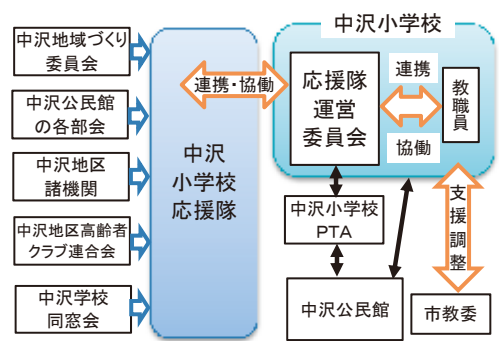


地域コミュニティの中核をめざすコミュニティ・スクール

長野県駒ヶ根市	● 活動名	● 関係する学校名
	中沢小学校応援隊	駒ヶ根市立中沢小学校

設置年度	平成 25 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	105 人
学校運営協議会の委員数	20 人	学校運営協議員の属性	中沢学校同窓会長、歴代同窓会長代表、中沢公民館長、中沢公民館の各部会代表、中沢地域づくり委員、中沢区長、区長経験者代表、民生児童委員会、主任児童委員、保護司、中沢地区育成会長、中沢地区高齢者クラブ連合会長、中沢社会福祉協議会長、正副PTA会長、前PTA会長、中沢保育園保護者会長、校長、教頭、教務主任、地域連携担当職員		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.nakapo.jp				

● 体制図



● 連絡先	駒ヶ根市立中沢小学校	☎ 0265-83-3707
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯
 地域にある諸機関・諸団体が学校の教育活動や環境整備等をサポートする相互支援体制を確立、地域ボランティア「応援隊」と保護者の短時間ボランティア「チョコッと部隊」の支援活動を通じて異年齢交流が進み、学校が地域の世代交流の拠点となりつつある。

平成24年度応援隊運営準備委員会が設置され、平成25・26年度の2か年をかけ文部科学省の補助を受けたコミュニティ・スクール推進研究指定校として活動基盤を作った。平成27年度以降は駒ヶ根市指定のコミュニティ・スクールとして活動の継承を模索し、誰でも・気軽に・何時でも参加できる「中沢スタイル」を合言葉に応援隊員の増員と世代交代を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の熟年シニア世代の方が交代で講師を務める、地域の特色ある産業や食文化などの体験的学習。(炭焼き窯による炭焼き、ふなつかみ、ザザムシ獲り、松茸採り、こんにゃく栽培など)
- 応援隊が企画・運営する駄菓子屋の売買や露店コーナーに地域の方・保護者が協力してくれ、さらに保育園児も保護者同伴で立ち寄ること小学生だけでなく世代を超えた交流の場となっている「駄菓子屋」。
- 月一回実施し、誰でも・気軽に参加できる機会としている他、樹木の枝打ち・剪定、草刈りなど気づいた時にやってくれる方も多い応援隊エイジレス部隊による環境整備活動。
- 中核コーディネーターが交代で保護者に代わって家庭学習の面倒をみてくれる寺子屋（放課後学習）。

【実施にあたっての工夫】

- 中核コーディネーター5人が曜日当番制で毎日学校に来て、朝、職員と打合せ等を行い支援活動の円滑化に尽力。学習支援、環境整備、必要な物品の調達、人手集め等の中心的役割を担い、定期的にコーディネーター会で情報交換。
- 応援隊の趣旨、年間の環境整備活動実施日を記した全戸配布文書（年間保存版）や応援隊メール配信を通じて広報。
- 事業に際して発想～企画～実行までのスピード感を大切に、役割分担を固定化せず参集した人の協議で柔軟に対応。
- 同窓会より応援隊活動資金やボランティア保険の掛け金を提供してもらう。旧用務員室を改修した同窓会室を応援隊本部として活用する。

● 事業を実施しての効果・成果

- 体調を崩したコーディネーターさんのお宅にお見舞いに立ち寄った児童がいたり、「この間はプール清掃ありがとうございました」とお礼の言葉をかけた児童がいたりするなど、温かいコミュニケーションがとれているという声が多い。
- シニア世代にとって生きがいの場となり、元気を取り戻した方や生き生きと関わる方の姿が見られる。また、学校に対して何らかの形で貢献したいという気持ちが膨らみ環境整備作業への参加者数が増えてきている。
- 10年程前には複数名いた長期欠席児童が4年前からいなくなったり、問題行動等でも重大な事案が無い状態が続いたり、児童の落ち着いた態勢が継続するようになっている。

● その他

○応援隊員の高齢化に伴う世代交代が課題として浮上してきている。人同士の絆を頼りに新たな応援隊員を獲得したい。



保育園児から小学生・保護者・シニア世代まで、世代を超えた交流の場「駄菓子屋」



茶菓をいただきながら環境整備作業の分担・手順の打ち合わせをする「応援隊エイジレス部隊」

ポイント

「チョコッと部隊」を作り、たくさんの方が少しずつ関われる仕組みは参考になります。中核コーディネーターさんの熱意と努力が、このコミュニティ・スクールを支えています。